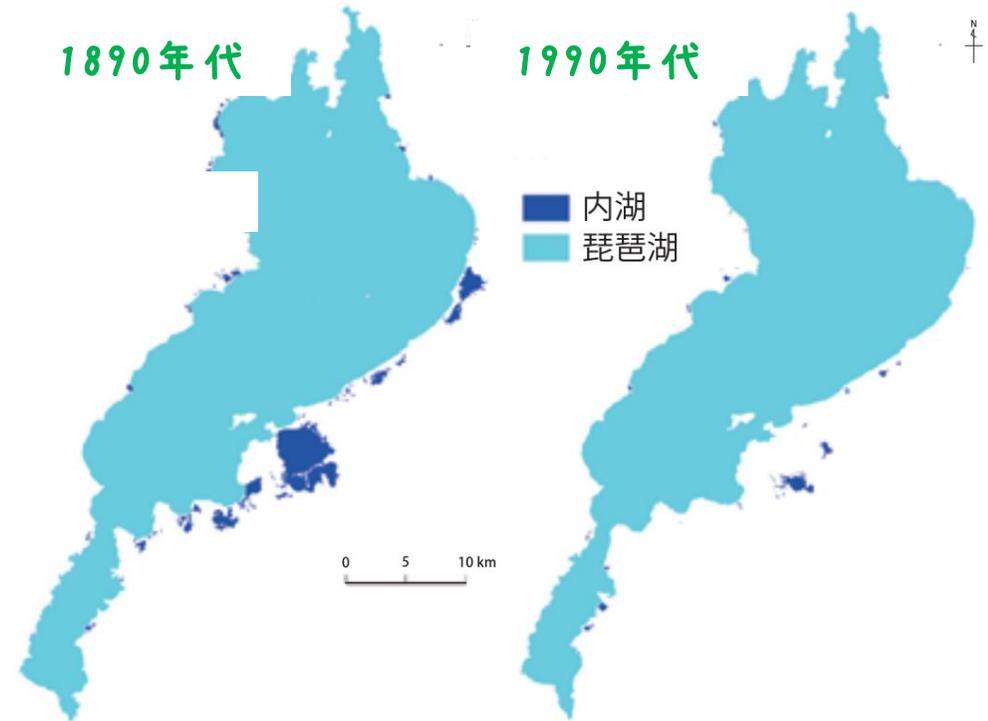


ヨシについて③ ヨシ原を未来にひきつぐために

このように、ヨシはかつて私たち人間の暮らしを支えてくれる身近な植物であり、人が利用することを通じて、ひとと生きものがめぐみを分かち合う「共生」の仕組みをつくりあげてきました。

しかし人間の生活は大きく変わり、ヨシがなくても人間が困ることはなくなりました。かつて琵琶湖のまわりには「^{ないこ}内湖」という琵琶湖と水路などでつながった小さな湖がたくさんあり、そこにヨシが生えていました。しかし、内湖は多くが埋め立てられ、食べ物を生み出す水田や、便利な生活をかなえてくれる道路などに姿を変えていったのです。その結果、多くのいきものたちも姿を消していきました。



内湖の移り変わり:

内湖の大部分は干拓され、総面積は35.2km²から5.3km²に。
近江八幡市の西の湖は、現存する最大の内湖で、今も
日本を代表するヨシの産地として、文化が受け継がれています。

ヨシについて③ ヨシ原を未来にひきつぐために

琵琶湖のヨシ原は一時期、半分以下に減ってしまいました。

ヨシ原の価値をもう一度見直し、人とヨシの結びつきを取り戻しながら、大切な存在として未来に引き継いでいくために生まれたのが、平成4（1992年）年7月1日に制定された「琵琶湖のヨシ群落の保全に関する条例」、通称「ヨシ条例」です。

ヨシ条例の前文には「私たち人間も自然界の一員であることに立ち返り、自然の仕組みに目を向けて、自然と人との共生を目指して活動に取り組む」ことが書かれています。人間の生活を支えてくれる自然を再生し、自然と調和した人間活動を生み出していくことを、滋賀県ではSDGsが生まれる20年以上前に宣言していたのです！

ヨシ原は、人の営みと
いきもののいのちの営みが
重なり、めぐみをわかち合う
「共生」のシンボル



【参考】琵琶湖のヨシ群落の保全に関する条例

(平成4年3月30日公布、7月1日施行)

琵琶湖は、その営々とした自然の営みの中で、様々な人間活動を支え、私たちに限りない恩恵をもたらしてきたかけがえのない資産である。この琵琶湖が、近年、集水域の都市化の進行などにより水質の改善が進まず、その保全と利用が危惧される事態にあり、私たちとのかかわりも、新しい段階を迎えている。

県民すべての願いである碧い琵琶湖を取り戻すためには、今日までの湖に流入する汚濁の原因となる物質を削減する努力に加えて、湖自身の健全な自然の営みを重視し、その維持と回復に努めることが求められている。今一度、私たちも自然界の一員であるとの認識に立ち返り、県民一人ひとりが、自然にやさしい暮らしを心がけ、自然の生態系の仕組みに目を向けていかなければならない。その第一歩として、自然と人との共生を目指していく私たち滋賀県民の琵琶湖の保全活動として、湖辺のヨシ群落の保全を進めるものである。(前文一部抜粋)

ヨシ条例の前文の一部を紹介します。

少し難しいかもしれませんが、興味のある人はぜひじっくりと読んでみてください。
H.P.などで、全文を読むことも出来ますよ。

ヨシについて③ ヨシ原を未来にひきつぐために

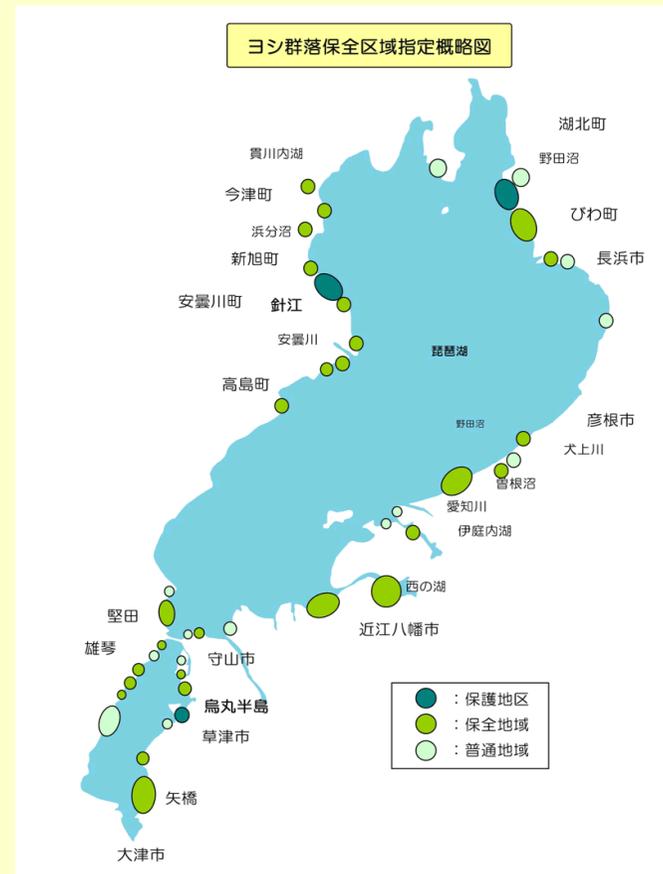
ヨシ条例に基づく取り組み

① 守る

指定されたヨシ群落の面積は、琵琶湖は165ha、
内湖は91haで、合計256ha(平成19年調べ)



保護地域に指定されている 高島市の針江浜。
春にはたくさんの魚たちが産卵にやってきます。



ヨシ条例では、取り組みの柱として「守る」「育てる」「使う」の3つを掲げています。

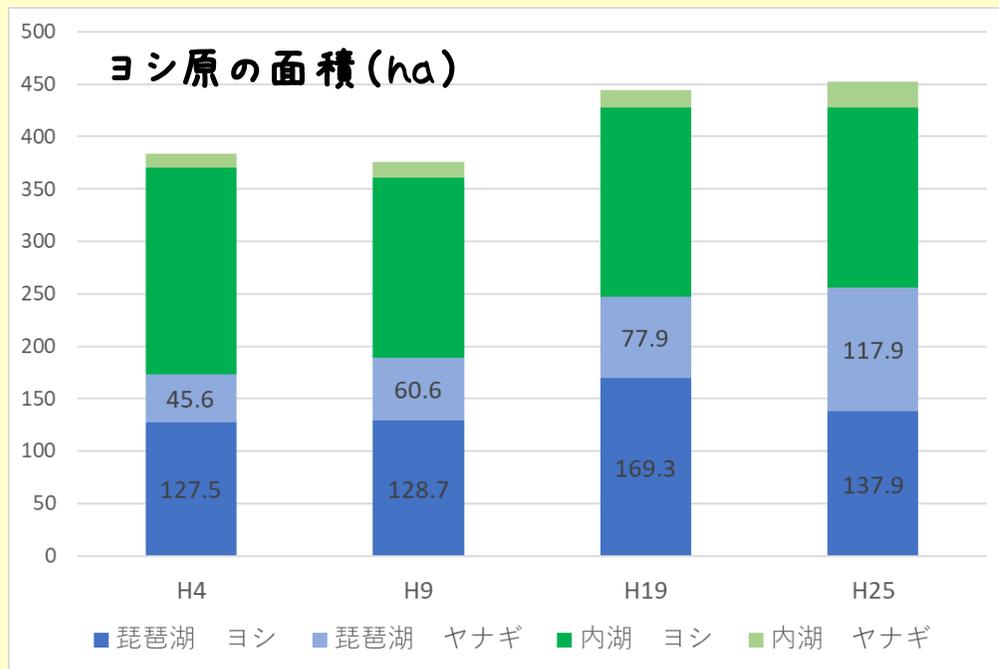
「守る」の取り組みでは、琵琶湖に残っているヨシ原の中で特に重要な地域を「保護」「保全」

「普通」地域に指定し、勝手に開発などが行われないように保護しています。

ヨシについて③ ヨシ原を未来にひきつぐために

ヨシ条例に基づく取り組み

② 育てる



「育てる」の取り組みでは、ヨシが弱ってきている場所にヨシを植えたり、新しいヨシ原を作ったり、増えてしまったヤナギの木を伐採したり、ヨシ刈りをしたりして、ヨシ原が良い状態になるように手助けをしています。

ヨシについて③ ヨシ原を未来にひきつぐために

ヨシ条例に基づく取り組み

③ 使う



建築の材料に使う



食べ物に加工する



紙・文房具をつくる
@コクヨ工業滋賀



クラウドファンディングによる
商品開発も



中でも重要なのは「使う」という意識です。ヨシはもともと人間の生活に欠かせないものであり、人が利用することでヨシ原が守られてきた、というお話をしました。ヨシ原を未来に引き継ぐためには、今の社会の中でもう一度「必要な存在」として位置付け、使い続けていく必要があります。どんな使い方ができるのか、いろいろな人が工夫をはじめているのです。

ヨシについて③ ヨシ原を未来にひきつぐために

ヨシ原がふたたび「人と自然の共生」の場となるために



ヨシ原を守るために一番大切なことは、実は「ヨシ原は大切だ」と思う人たちを増やすことだと思います。

ヨシ原が減ったのは、決して環境を悪くしようと思ったわけではなく、その時代を生きている人たちが

より豊かに、安全に暮らすために真剣に考えた行動の結果でした。ヨシ原を守りたいと思う人たちが

増えれば、未来のヨシ原はきっと、今よりもっといのちにあふれた素敵な場所になっているはずです。

ぜひみんなでヨシ原に出かけ、ヨシにふれ、そこにあるいのちのにぎわいを感じてみてください。

そして、ヨシ原を守る仲間になってもらえたら嬉しいです。